

三者協議会（令和7年度第1回）概要

日 時：令和7年6月20日（金）10時～11時10分

場 所：本部管理棟3階 第1会議室

出席者：あずさ監査法人 杉田パートナー、玉垣パートナー、瀬藤マネジャー
青山監事、大久保監事

榊理事長、宮下大学総括理事、高田大学総括理事、榎本理事、西村理事

陪席者：沓澤事務局次長、樋口財務課長、仲林財務課総務・決算係長、三谷監査室長、太田
監査係長

概 要

あずさ監査法人から、資料に基づき第21期監査結果概要について報告があった後、質疑応答が行われた。

その中で、教員が管理する預り金について言及があり、多額の現金を管理することにリスクがあるため現金で管理しない仕組みを作るよう指摘があった。

また、固定資産の減損に関連して、令和9年6月以降使用しないこととされている職員宿舎について、その後の土地の活用について検討が必要との話があった。

他、購買関係について、奈良女子大学では例外処理として発注済購入依頼票の省略が可能だが、例外処理が多数あることから、物品の検収時に照合できず牽制機能が弱まる可能性が指摘された。不明図書については、両大学とも進捗がみられた旨の説明があった。

榎本理事からは、昨年度の指摘以来、機構としても取り組んできたこと、固定資産、特に職員宿舎について今年度のうちにサウンディング調査に着手予定であること、また購買関係については仕組みを教員にも説明し協力を求めている旨の発言があった。

監事と理事長、役員等との意見交換（令和7年度第1回）概要

日 時：令和7年7月24日（木） 14時8分～15時35分

場 所：本部管理棟3階 第1会議室

出席者：青山監事、大久保監事、菅監事

榊理事長、宮下大学総括理事、高田大学総括理事、三谷理事、西村理事

陪席者：沓澤事務次長、向監査室長、太田監査係長

概 要

「今後の大学のファンディング・財務運営のあり方について」をテーマに意見交換が行われた。

その中で、記念館のクラウドファンディングが目標金額を大きく上回ったことに触れつつ、卒業生や一般の方に継続的なサポーターとして大学の取組を広く支えてもらう方法も考えられるのではないかとの意見があった。一方で、ある程度大きな金額を集めるには、今回のクラウドファンディングのように目標を具体的に示すことが重要であるとの意見もあった。

また、企業との関係については、社会全体で次世代を担う人材を育てるという認識を共有しながら、企業と大学との継続的な交流が必要であり、例えば、学生と企業の交流イベントを契機として企業から支援を得るなどの仕組みづくりも考えられるとの意見があった。

さらに、ファンドレイジングにより収入を得ることとは別に、現在の支出を抑制することについても議論され、企業と大学とのクロスアポイントメント制度の導入事例の紹介や、大学間のクロスアポイントメントを進めることにより人件費の抑制につながるなどの意見があった。

三者協議会（令和7年度第2回）概要

日 時：2025年10月30日（木） 10時～11時10分

場 所：本部管理棟3階 第一会議室

出席者：あずさ監査法人 杉田パートナー、玉垣パートナー、瀬藤マネジャー
青山監事、大久保監事

榊理事長、宮下総括理事、高田総括理事、三谷理事、西村理事

陪席者：沓澤事務局次長、樋口財務課長、仲林総務決算係長、向監査室長、太田監査係長

概 要：

あずさ監査法人から、資料に基づき第22期監査計画について説明があった後、質疑応答が行われた。

その中で、監査法人でAIを使ったシステムを活用していることについて言及があり、当機構でもAIを活用する場合、具体的にどうするか、また、他大学でAIを使って効率的に財務諸表等のチェックをしている事例があれば情報がほしいとの意見があった。

引き続き、監査室長から資料に基づき現在の法人運営環境等について説明があった後、意見交換が行われた。

その中で、女子大におけるクラウドファンディングの本格導入や教育大における新たなネーミングライツの検討について言及があり、監査法人からは、新たな収入源に関しても管理体制等についてチェックしていきたいとの発言があった。

また、機構全体の予算規模と比較するとクラウドファンディングや寄附が占める割合は小さく、予算の中で多くの割合を占める人件費への対応が基本であるとの意見があった。

監事と理事長、役員等との意見交換（令和7年度第2回）概要

日 時：令和7年9月25日（木）14時10分～15時35分

場 所：本部管理棟3階 第1会議室

出席者：青山監事、大久保監事、菅監事

榊理事長、宮下大学総括理事、高田大学総括理事、三谷理事

欠席者：西村理事

陪席者：沓澤事務次長、向監査室長、太田監査係長

矢倉総務課長、寺本企画課長、北角企画課長補佐

概 要

「機構、両大学の広報活動について」をテーマに意見交換が行われた。

はじめに監事から、学部やセンターなど個別に必要な情報は発信されているものの、発信内容を集約できる仕組みが必要ではないかとの提起があった。

これに対し、奈良女子大学からは、今年度から大学ホームページのイベントカレンダーに情報を集約できるよう取り組んでいるとの報告があった。

機構の広報については、大学が発信する広報の一部を機構ホームページにも掲載するなど、大学独自の情報発信を行いつつ、法人としての発信を行う形とすることで、情報の風通しが良くなるのではとの意見や、機構全体のコンテンツの大半は大学発信の情報であるものの、両大学を支える機構の存在については、一定程度発信しておく必要があるとの意見があった。

また、機構としての情報発信の在り方として、現状では両大学と機構の3つのホームページが存在していることから、機構ホームページに情報を集約し、その中に各大学のコンテンツを掲載する構成とすれば、より網羅的になるのではないかとの意見があった。

一方、ホームページの構造を大きく変更することは費用面で困難であること、ホームページの閲覧者が最初に求めるのは大学の情報ではないかとの意見もあったことから、まずは両大学のホームページに機構の取組を掲載するなど、可能な範囲から機構としての情報発信を進めていくことになった。

監事と理事長、役員等との意見交換（令和7年度第3回）概要

日 時：令和7年11月27日（木）14時45分～15時30分

場 所：本部管理棟3階 第1会議室

出席者：青山監事、大久保監事、菅監事

榊理事長、宮下大学総括理事、高田大学総括理事、三谷理事

欠席者：西村理事

陪席者：沓澤次長、向室長、太田係長

概 要

「内部統制・危機管理（経理に関する事項）について」をテーマに意見交換が行われた。

内部統制・危機管理は幅広い概念であるが、今回は不正やミスの見落としといった経理上のリスクについて取り上げられた。

経理上のリスクへの対策として、例えば、決算作業の中でダブルチェック、必要に応じたトリプルチェックの実施、前期比較を行うことが有効ではないかとの意見があり、前期比較については、四半期毎など定期的なチェックを検討しているとの説明があった。

また、ヒューマンエラーを防ぐには職員の配置を適切に行うことも重要であり、人事ローテーションを通じた経験の蓄積や、職員の適性を踏まえたバランスの取れた配置が必要ではないかとの意見があった。

監事と理事長、役員等との意見交換（令和7年度第4回）概要

日 時：令和8年1月29日（木） 14時10分～15時15分

場 所：本部管理棟3階 第1会議室

出席者：青山監事、菅監事

榊理事長、宮下大学総括理事、高田大学総括理事、三谷理事、西村理事

欠席者：大久保監事

陪席者：沓澤次長、矢倉課長、樋口課長、向室長、太田係長

概 要

「内部統制・危機管理（運営上のリスク）について」をテーマとし、特に大学と企業との繋がりについて意見交換が行われた。

はじめに監事から、大学と企業との連携は重要である一方、企業との個人的な関係については、会食に加え、企業イベントへの参加や、企業の広告等に教員名・大学名が掲載されることなども含め、より厳格に確認していく必要があるとの指摘があった。また、学生のインターンシップについても、利益供与に該当する事例が生じていないか、チェックが必要ではないかとの問題提起がなされた。

当機構においては、兼業に関する規程を定めているものの、利益相反が生じていないか、公平性を損なっていないかといった点について、引き続き注意が必要であるとの意見があった。例えば、インターンシップについては、大学から企業に打診し、全学生に対して情報をオープンにするなど、企業との関係構築を個人間で進めるのではなく、透明性を高めることが重要であるとの意見があった。

また、ネーミングライツ等については、社会的観点から公平性の確認が必要である一方、過度な制限により問題のない取組まで妨げてしまう可能性もあることから、他大学の事例も参考にしつつ、バランスを踏まえた判断が求められるとの認識が共有された。